

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	古賀市緑のまちづくりの会
事 業 名	古賀市における園芸福祉事業
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・活動を縮小してでも、自分たちの組織の体制をしっかりと整えていくとか、継続して息の長い活動をしていく方法もあるのではないか。団体の自立した活動に向けての財政面、高齢化に対する体制面への改善の取り組みを加速させないといけない。担当課からは、長い目でという話があったが、それはここ 2、3 年であっても継続して活動できる見通しがあつてのものである。団体にとっては生き残りを図っている状況で、活動で手いっぱい考える時間がないというぐらいであれば、活動を縮小してでも、補助金が終わったあとにも継続して活動できるためにどうするかを考えながら作戦を立てて実行していくところをしっかりとやっていただきたい。 ・前年度と比べて参加者数が増えている点では、努力されていると評価できる。将来的なことを考えたときに、行政、学校、介護事業所、地域の依頼に基づいて応えていこうとする場合には、活動に必要な経費については徴収することを検討してもよいのではないか。 ・団体の活動自体は、とても充実していて、内容に工夫もあり、非常に有意義なものだと思う。高齢化等の問題点については、団体自体も認識は持っているということだが、活動が充実している分、担う方たちの負担が多いことで、逆に担うことにちゅうちょする人がいるのではないか。今いる方のマンパワーでこれだけできたとしても、それをそのままの状態ですぐに探る人はなかなか難しいだろうと思うので、少しずつ振り分けたり、ボランティアを募るとかで、担い手を探すやり方も工夫したりして、少しずつでも、取り組んでいってもらいたい。 ・団体の活動が公益性や必要性という面で、非常に高く評価されていると思うし、団体の皆さんも、やりがい、生きがいを感じながら活動されていると思う。ただそこで、団体がやりたいこと、やるべきことはたくさんあるが、結局現状ではお金もないし人もいないところが課題になっていると思う。補助金がなくなった後、今までやってきたことよりは活動量は少なくなるかもしれないが、今あるお金と人で、本当に必要でやらなければいけない最小限の活動を念頭に置きながら、平成 28 年度の活動をしていただきたい。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	古賀市民オーケストラ
事 業 名	定期演奏会
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 団員増や、クオリティ、団体維持の話は連動していると思うので、団員増について、具体的に、どのような人を何人、いつまでにどう増やすのか、そのためにどう動くのかといった戦略を早急にたて、行動に移していただきたい。具体的に行動した後で、報告を聞かせていただきたい。 ・ 前年度は報告会でトランペット演奏について叱責を受けたと聞いたが、今年はそのようなことはなかったようだ。今後も演奏会の質が保たれるようであれば、入場料金について収入総額の観点から検討してはどうか。 ・ 学生の入場者数の増加は収入増にはつながらないが、将来のことを考えれば、試験期間と重ならないように期日を設定して、多くの学生に来てもらうという対応が可能ではないかと思うので、検討していただきたい。 ・ 前年度に比べて、チケット売上が増えた点はとても評価できる。ただ、努力した結果、目標の半分であったということは、抜本的に検討し直す必要がある。演奏会の内容が、クラシック音楽の知識がない人にとっては敷居が高いのではないか。団体の目的が「市民が気軽にクラシック音楽に親しむ」ということを考えても、市民が親しみやすい楽曲を演奏する等の気軽に楽しめる要素を取り入れて集客増を図る検討をしてはどうか。また、団員募集の点でも、初心者や興味がある人にも門戸を広げる工夫することで、市民レベルの、もっとオリジナルな古賀市の団体になるのではないか。 ・ 福祉団体や高齢者施設、高校生への声かけのタイミングの問題等、やるべきことは分かっているようだが、どうすれば効果的かという点まで、しっかり検討していただきたい。委員会で出されたアンケートをすべきという意見を受け、実際にアンケートを実施された点は非常によい。アンケートを継続し、団体自身の状況を徹底的客観的に分析して、しっかり取り組んでいただきたい。 ・ 市民に親しみを持ってもらうような取り組みを行うほうが、団員が多く集まるとか市民にとってより身近になるということであれば、そのような面に力入れる方法もあると思う。定期演奏会を自分たちがやりたいから申請するのではなく、団体の存続や継続した活動にとってよいか、市民にとってどうか、文化の押し売りではなく市民から求められるものは何か、市民に直接伝えられるものかという視点で考えたときに、団体にとって、定期演奏会を続けていくことが、プラスなのかどうか検討した方がよいのではないか。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	特定非営利活動法人 古賀市文化協会
事 業 名	夏休みこども体験教室
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・現状の収入と支出を考えると、活動自体が自立できないことはないと思う。ただ、この規模を維持してずっとやっていくことは今後、寄付や協賛金がないと無理な気がする。自分たちの戦略の中で、集中と選択が必要になると思う。また、補助金をもらった3年間のうち、法人として得られた成果はどういうところにあるのか、補助金を得てやった事業により何を、それを今後の活動に生かしていくのかがあまり見えていない。3年が終わるというところに関して、その辺を考えていただくことが必要だと思う。 ・当初申請時にはなかった参加費や保険料等をとるべきではないかという指摘のとおり、実際、100円を徴収し努力したと同時に、印刷代等も抑えた形で支出しているので、そうした無駄な経費を節約しながら、今度も進めていただきたい。今の時点では難しいと思うが、将来的には事業に係る20万円の財源をどうするのかという意味での参加費の検討と、講座が定着して将来的に会員になっていくことを考えれば、将来的に講座開設に伴う負担金も検討できるのではないかと。 ・この2年の活動を見ていると内容は非常に好評で、参加も多く、定着していきそうに思う。あとは、自分たちで収支を補助金に頼らずにできるよう工夫していけば、団体で出来るようになるのではないかと思う。頑張っていたきたい。 ・参加費を徴収してはどうかと指摘したことで、団体がそれを踏まえて参加費をとった。また、その他の経費削減に取り組んでいる。その点は本当に努力として見えておりよい。しかし、695人が参加して、69,500円の収入はあったが、補助対象経費として充当されている金額が少ないことは少し気になる。0円から100円に上げて、また次年度に200円や300円に上げることは難しいと思うが、自立に向けて、活動に必要な23万円をどう賄っていくのか、今後も引き続き検討していただきたい。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	古賀市「第九」実行委員会
事 業 名	第十回古賀市「第九」演奏会
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員会というのは、プロジェクトという位置づけのときあるいは多様な人たちがかわってやるときに使われるものであると思うので、委員が総替えという話では事業の継続性の点で疑問がある。今後の補助金の出す、出さないの判断材料にもなりうるので、組織のあり方を今後考えていただきたい。責任の所在がはっきりせず、そもそも誰がやっているものか、透明性のあるものでないと集まるものも集まらないこともあるので、イベントとして、収支とんとんでやるという話ではなく、団体としてきちんと自立した活動にしていくことが必要ではないか。 ・ アンケート調査では、感動を得たという回答が記載してあることから、来た人は割と感動してあるが、その人数が 26 年度から比べると大幅に減った状況があるので、内容もともかく、民間の情報誌等も利用する等して周知する方法をいろいろと検討するとよいのではないか。財政的に将来自立する方向にしていくとして、409 千円の補助金対応として、入場者を 300 名程度増やさないといけない計算になるので、相当な努力が必要。 ・ 来場者が減っている点は、残念だったと思うが、委員会でもお願いしていたアンケートをとって、自由記載欄にかなり色々な意見を書いてもらっているのので、これが今後改善していくにあたって、とても貴重な材料になると思う。団体の体制を 1 年でぶつ切りではなく、ちゃんと引き継いでいけるような体制にした上で、前年度の反省を生かして、戦略や対策を立て、観客や参加者を増やすことにつながるよう、運営を工夫していただきたい。 ・ 報償費に関して、資料に細かく書いてあり、色々と努力をされていることが伺えるので、非常によい印象がある。委員会でアンケートを実施するようお願いしたところで、実際に実施していただいて、きちんと集計して、自由記述も書かれてあり非常に良かったとは思いますが、アンケートはやるのが目的ではなく、その結果を現状分析して、その課題を見つけて、対策をとるためのものであるのので、集計の結果と自由記述プランがただ羅列されているだけではなく、きちんと分析をして、問題点や課題を見出し、観客を増やすための具体的な戦略を示してもらえるとよりよかったです。 ・ 参加者も減っている状況であるため、参加者の声もアンケートをとるとよいのではないか。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	古賀市市民劇団 DAICOON
事 業 名	演劇ワークショップ 「嵐の夜～私の住むまち～」
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・資金調達の原則からすると、とれるかとれないかわからない民間助成金をメインの収入に置いてあるのは、団体としては、先行きがあまり長くないと自分たちをアピールしているようなもの。1年目から方向の転換が必要という話があったが、まだ方向転換していないところを見ると、危機意識が足りないと言わざるを得ない。そもそも、自分たちの今のクオリティや規模を保つためにいっぱい補助金を応募しないといけないようになっている。お金があるときだけ劇ができればよいという話では、サークルと同じで市民公益活動団体ではない。社会貢献のために継続していくという話であれば、目的を達成するために、自分たちなりにどういう近づき方があるのかを考えていただきたい。 ・参加者に負担がその分だけ多くなってでも実施しているということは、評価できるが、526名の観客はいるものの、リーパスプラザの定員には満たない、観客が少ない状況であるともいえる。補助金が当てにできない中では、観客数の増を図るためにどうするかが重要である。リーパスプラザでできない場合でも、小中学校で開催するなどして観客を増員する方法を考えてみる必要があるのではないか。 ・支出を見ると、報償費はある程度プロに頼んでいるので、やむを得ないとしても委託費が多い印象である。これだけの費用をかけて、入場料 1 千円で、会員の負担と補助金に頼っているやり方に疑問を感じる。どこにどうお金をかけて、どこを自分たちでやってという演劇に対する取り組み方を抜本的に見直して、身の丈に合った市民のニーズに合ったものにしてよいのではないか。団員の負担が増え、参加者が減ってしまうと元も子もないので、運営を見直して、長く続けるための予算規模を考えてもらいたい。 ・アンケートを実施したので、結果をしっかりと分析して今後につなげていただきたい。今回参加したのは関係者が中心だとのことで、口コミで人を集めるのが一番有力だと思うので、知り合いに頼んで来てもらった人が、これはよかったと、別な人を探してくるような形になるよう、クオリティを高めるとか、色々な工夫をしながら、うまく PR 活動をしてもらいたい。 ・方向性の点で、プロフェッショナルをめざすのか、市民劇団としてやれることを自分たちの最低限のところで行っていくとするのか、焦点がぶれているのではないか。マネジメントはアマチュアなのに事業だけプロフェッショナルクラスの方に持っていこうとすると、バランスが悪くなる。お金のかけ方とか、力の入れようとかのバランスを考えていかないと長く続かない。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	古賀アートフレンズ25
事 業 名	絵画で古賀市を元気にするプロジェクト事業
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金を申請して、計画どおりやれなかった絵画教室に関して、この人が倒れたら事業が終わりというのではなく、その他の方法を考えておくことが必要と思う。同じ過ちを繰り返さないために、リスクマネジメントは、企画を考える段階で考えておいたほうがよい。 ・ 計画通りに協賛金を獲得されており、どうやったら獲得できるのか、獲得するため工夫を文化課とノウハウを共有していただきたい。 ・ アンケート調査の結果を添付しているが、費用の削減が消耗品費と印刷製本費で出来ればよいが、いかに協賛金で賄うかにつなげられるよう、努力していただきたい。 ・ 活動自体は市民にも好評の様子。子どもの絵を市民が見る機会が、こういう形で提供されるのは非常によいことだと思う。目標が出品数を 1,500 点にしたいとのことだが、以前の資料を見ても、古賀市の全児童数が 3,284 人で、半分の児童に対して出してほしいという目標となると、基本的に募集の方法が、学校を訪問しお願いをして、夏休み明けに回収するスタイルなので、その辺りの学校との連携に今後どのように力を入れ、あるいは学校にどういう協力を求めるのか。連携を深めていく方向が必要だと思う。 ・ 応募数を倍増させたいということに関して、この事業はあくまでも絵画で元気にする事業で、小学生の絵画に限定されている訳ではないので、対象を中学生や幼稚園に広げたり、老人ホームや障害者ホームにもアプローチするのもよいと思う。絵画の対象を増やせば、協賛金を出そうと思う会社も増え、収入の増加にもつながるかもしれない。限られた時間の中で小学校に通うだけでも大変だと思うが、今後はそういったことも念頭に置いていただいてもよいのではないか。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団体名	古賀市商工会
事業名	古賀市商工会クリスマス市民祭
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書から熱意が見えてこない。市民のボランティア団体よりもはるかに報告も少ないし、成果もよく見えない。伝わるものが何もない中では、税金を投入する意味がないと言うしかない。次年度の広報のことを考える、周知拡大、参加者の拡大を図るなどがあるが、それ以前に説明責任もあり、しっかりと報告資料をまとめていただきたい。初年度から評価は厳しいところがあるが、今後についてはもっと厳しくなると思う。3年目が終了した後どうするのかという話ではなく、他のボランティア団体と異なり、自立以前の問題で、今後、市役所や市民と商店街の活性化に真剣に向き合う気があるのかを問われていると厚めていただきたい。 ・ 来場者が 1 千人ということだが、その結果として商店街の活性化にどうつながっているか疑問。商店街の活性化につながるような形にしてほしい。商工会の助成金があるが、将来、市の補助金がなくなった場合、どうするのか。出店料や協賛金等を取るとか、相当の努力が必要だと思ふ。 ・ 説明責任という意味からは、申請時と比較してみても、きちんと対応していないのではないかと厚めてしまう。前回指摘されたことも改善されているのかもよくわからない。イベントとして商工会独自でしていただくのはよいが、税金として補助を受けているという自覚が足りない。また、今後の収支についても見通しが見えてこない。2年も実施してまだこの状況というのは、かなり厳しいと言わざるを得ない。 ・ 商工会や商店街の活性化のためにこの事業が実施されていればよいし、それに税金を投入するのも必要な部分もあるかもしれないが、金額は非常に大きいと感じる。しかも、商工会からの助成金が減っており、協賛金をもう少しとったらどうかと以前から指摘をしていた中で、協賛金は増えたが、充当額が減っているし、出店料もとってみてはと伝えていたが、27年度はまだとっていない。そのあたりをもう少し厚めていただきたい。基本は自立に向けて活動する場合に補助金があるというスタンスを忘れないでいただきたい。税金が投入されている中で、実施報告に関して、きちんと成果が上がってきているように見えないし、姿勢も見えない。アンケートについて、回収率もそうだが、来場者以外の出店者や商店街にも、きちんとアンケートを取り、しっかりと分析して今後に生かしていただきたい。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団体名	古賀市商工会
事業名	古賀市商工会駅前商店街土曜夜市
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・補助金がなくなっても、多分継続していけるだろうと思う。残りの 1 年間は、補助金がなくなった後のことを考えた投資という感覚で臨んでほしい。今の感覚で規模感を維持するのではなく、本当に自分たちができる範囲でのどうよいものにしていくのかを考えて、そのための投資としての 1 年としてほしい。単純にイベント開催のために経費を投入するという話ではなく、自分たちの商売と同じ感覚で、将来のための戦略的なところを少し考えてほしい。・実際に行ってみて、来場者を見ていると満足度も高そうだと感じた。ただ目的は商店街の活性化なので、将来的には商店街の活性化につながるような形がみえるとよいと思う。・イベントとしては報告会の資料もわかりやすく、いろいろ工夫をして取り組んでいる様子がわかるので、今後も継続していつてもらいたい。課題は収入の面が大きいと思うので、今後、商店街を盛り上げる取り組みにしていくためにも、出店料をもう少し上げるとか、チラシに商店街の広告を載せ、協賛金を得る等、何か収入の面でも、全体で取り組んでいくようなものを考える必要がある。補助金が終わっていきなりというのは難しいと思うので、今年度からは是非始めてもらいたい。収入の面だけでなく、行く人からしても、商工会が全体として取り組んでいるという印象付けの効果もあるのではないかな。・アンケートの結果を踏まえて、現状分析し、課題を見つけてどのように改善していくのか一生懸命取り組んでいる姿がこの報告書から見ることができる。また補助金終了後も見越して、大きな成果にはなっていないが、協賛金、出店料のアップに取り組んでいるという印象も受ける。今後さらなる努力をしていただきたい。警備員も 6 名ぐらい採用しているようだが、ぜひ、万全を尽くしていただきたい。	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	特定非営利活動法人晴天人
事 業 名	古賀市PRワークショップ
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・当初、プレゼンテーションを聞いている限り、やる気はあるように思えたが、もともと実績がある中での実施ではなく、相応のビジネススペースにのるということが必要だったのかもしれない。また、ビジネススペースにのるような助言が必要だったのかもしれないと思った。商工会の経営相談に参加するでも良かったと思う。ボランティアベースでやるのか、ビジネススペースでやるのか、今回の収支が合わない中である程度、自分たちで出来るかという判断がもっと早くあった方が良かったかもしれない。ただ 2 年で、ある程度見えたということは本人たちにとっては良かったのではないかと思う。あと、委員会が 2 年間補助を出すという判断をしたことはどうだったのかと思うところがある。・申請書の中では、年間で 1,500 名を目標としていたが、実際は 427 名ということで、1 日平均にすると、2 名弱だった。駅前商店街の活性化という事業の目的があったわけだが、一店舗ではやはり無理があつて、他店舗の連携が必要だったのではないかと思う。竟成館高校や九州産業大学との連携についてはある程度話がついているのかと思っていたが、2 年間で全然話は進んでいないようなので、持って行き方を具体的に検討する必要があったのではないかと思う。・せっかく 2 年間活動してきたので、今後、このノウハウを活かしてほしい。・色々な活動を一生懸命頑張ろうという試行錯誤の中で 2 年間されてきたと思う。なかなか目標に到達できない中で、色々なアイデアを考えて色々な連携したり、取り組みをしていたが、結果として、メンバーの退会等によって事業が困難ということだった。もしメンバーの退会がなかった場合、3 年目どうだったのかということも気にはなる。うまくいかないからと色々なアイデアを出した結果、かえって力が分散してしまい、結局、竟成館高校とも九州産業大学ともコラボレーションの実現に至らなかったということだった。やるべき事業をもう少し絞ってやるほうがよかったのではないか。この晴天人のためにもこの 2 年間は総括していただきたい。	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	特定非営利活動法人古賀新宮子ども劇場
事 業 名	プレーパークの定期開催から常設に向けたプレーワーカーの育成事業
評価におけるコメント	
<p>・ほかの事業と比べて自立度が極めて低いという感じではないと考えるが、仕組みづくりの視点は必要ではないか。古賀新宮だけではなく、伝統的に子ども劇場ではお子さんから参加料をとらないというのはあると思うが、お子さんの小遣いからとるという話でなくともよいのではないか。まずは実費からでもちゃんととっていくという考え方は、結果的に、子どもにとっても重要な点ではないか。昔からの言葉でただより高いものはないというものがあり、ただで参加できて楽しかったからそれで終わるというのではなく、実は結構なお金が投入されており、何かをやるためにはそういうお金が必要だということを経験してもらったことも必要ではないか。</p> <p>・開催場所である千鳥ヶ池公園に古賀市全域から来るには、位置的な問題があるのではないか。公園近くの子供も来て遊んでいることが考えられるので、できる限り開催場所を広げられるとよいと思う。</p> <p>・最初に今から始めるところから始まって、毎月実施をして、やり方が確立してきており、補助金による成果が出ていると思う。今後、補助金がなくなった後でどうやって続けていくかという面において、特に小学生の子どもの外での遊び場所は、街中では少なく、とても貴重だと思うので、無理をして途中でできなくなるよりは、多少の負担を少しずつでも親に負担をしてもらって続けていくという方向のほうが利用者の立場としてもいいのではないか。子どもだけで出てきて、お金がないから入れないというのではなく、キャンプ方式で払ってもらってはどうか。逆に無料だと気が引ける人もいるかもしれないし、ある程度払えるものの中で払う方もいると思うので、そういう人からの意見も聞きながら、とらないの一点張りではなく、もう少し柔軟に考えて、みんなでつくっていくような雰囲気になるとよいのではないか。</p> <p>・事業自体が非常に意義のあるものだと思っている。ただ参加費をとらないと、いつでも参加できる反面、逆にいつでも勝手にやめてしまうなど無責任な意識も出てきてしまうのではないのか。せめて実費で 50 円 100 円くらいでも構わないので、幾らかでも自分はお金を払って参加したとなれば、この取り組みに対して、保護者もまた子ども自身も愛着も湧くし、お金を払ったのだから頑張ろうという気持ちになるのではないか。</p>	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	古賀子どもの本の交流会
事 業 名	「東北記録映画三部作」上映～3.11 語ること・きくこと
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・やりっぱなしにならないようにという、1 点に尽きると思う。どういう方向性にしていくのかの方針を知りたい。実際に地震もあり関心が高まっているところでもあるので、この事業を今後どう生かすか、具体的な方法を考えていただきたい。災害救援や防災の団体ではないにしろ、子どもたちにそういったものを伝えていくという過程の一環で方法を考えていただきたい。 ・団体は、子どもの読書活動の推進を図ることを目的としているが、今回の内容は、東北の震災の記録映画を上映したということで、結果的には災害に関しての話であったので、市民全体に伝わるよう総務課で災害に関係する事業の一環として考えてもらってもよいのではないか。 ・三部作ということで、それぞれ上映するだけではなく、語り部の講師を呼んで、年に 3 回実施したのは、大変だったと思う。三部作をこういう形でやりたいという、熱い思いですごく頑張って企画をされたのであろう。具体的なスケジュールを見ると、少しだけ興味のある人にとっては敷居が高く、時間設定や時間の長さが、逆に気軽に参加しにくくなった面がなかっただろうか。せっかくフィルムを借りるのであれば、公演と映画だけにこだわらず、1 回の映画上映を 2 公演にわけてやるなどの工夫ができたのではないか。今回のことを踏まえて、今後実施するときには、色々と参加しやすいような工夫をしてほしい。少しでもたくさんの方が来られるような形で実施して広めていただきたい。 ・企画については、非常よいものであったと思うし、内容に関しても、非常によかったと聞いている。だからこそ、やりっぱなしにしないためにも、講演の内容や映画を見た感想をまとめているのであれば、それらも含めた冊子をつくとよいのではないか。その冊子を使って子ども達に伝えることができるよう、今回の事業を次年度以降もつなげられるような形にしていきたい。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	たけのこ文庫
事 業 名	科楽しよう！サイエンスレンジャーによる科学教室
評価におけるコメント	
<p>・ 成果報告書の事業改善点において、講師との事前打合せを行ってはいたが、十分ではなかったとあるが、打ち合わせがうまくいっていないという話であれば、そこはしっかりやったほうがよい。今後も講師を呼ぶこともあると思うので、うまくいかなかった責任が講師側にあるのか、団体側にあるのかというところは整理したほうが良い。</p> <p>・ 概ねしっかりとされているという印象だが、参加者の反応が主観的なものになっているように感じる。参加者に向けたアンケートなどを実施していただきたい。</p> <p>・ 今回の実験の内容は、小学校ではやらないということで、募集のチラシを作成して 24 名の小学生が体験したということだが、義務教育の中で、全体的に体験するほうがよい。個別に 24 名だけが体験するのではなく、全小学校を対象として、多くの小学生が参加できるよう、広がりについてもっと検討していただきたい</p> <p>・ 企画としては意義があるものだと思う。場所にも限界があったのかもしれないが、せっかくの機会なので、広く子どもたちが参加できるよう、今後実施するときには、工夫をお願いしたい。参加者が多くなれば、参加費収入もその分増えていくし、今後の自立にもつながると思う。講師任せになっていたのではないかと危惧する面もあるので、スタッフのほうでも、今回の件を振り返って、今後につなげていただきたい。</p> <p>・ 事業を行う際に参加費をとってやっている点はよかったと思うが、参加人数がどうやったらもう少し増えていくのかを考えて、この事業が次年度以降もつながっていけるよう工夫をしていただきたい。</p>	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	薦野の歴史をつなぐ会
事 業 名	官兵衛 KK（古賀市薦野）版「千里眼 薦野増時」宣伝事業
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・申請時の印象と違い、よいものになっていると思うが、自立してやっていくことを考えると、経費が増えている点が気になる。先行投資的なものであれば、あまり気にする必要はないが、自立するためには、寄附金が収入できなかったところは、もう少し工夫の余地があるのではないかと。参加者については、イベントも結果的に天候に影響されたり、対象事業から外したりしたため、減っているとのことなので、おおむね順調だという感じがするので、これから色々な工夫を重ねていくことで、十分自立してやっていけると思う。心配なのは、薦野地区の人たちの盛り上がりがどの程度なのかという点である。 ・雨や対象事業から外した影響もあると思うが、26 年度と比べると区外からの参加者が多くない。申請時には駐車場代が計上されていたものの、使われていないようだが、薦野地区の地理的な条件からいくと、駐車場を確保して、区外からの参加者を呼び込む必要があるのではないかと。 ・イベントにオリジナリティがあり、地域への愛着に溢れた、興味深い内容になっており、参加者もそれなりに確保できている。イベントとしては形になってきて、これからどう自立していくのかを考えていく時期かと思う。支出を見ると、スタッフジャンパー代とマップ印刷代が半分ぐらいを占めているが、臨時的な支出だと思うので、次年度は支出を抑えることができるのではないかと。あとは、収入を得る努力をしていくことが必要になってくるのではないかと。 ・当初この事業は、一部の人に偏りがいいのか、対象が歴史に興味のある高齢者だけに限られてしまうのではないかなどと思っていたが、今回の報告でも書面から、一生懸命に努力をされているような印象が伝わってきた。会員間の親睦が図れてみんなで楽しそうにやっている、地域の活性化をもたらすために一生懸命やっている、薦野城址がわからない人のために標識をつくるなど、手づくり感があり、みんなで知恵を出しながらやっている印象を受けた。ただ、自立に向けてどうするかということ色々と検討して、地域に根づいた活動を続けていっていただきたい。また、会員の拡大ということで、実際はなかなか難しいと思うが、まず、目標の 20 名を目指して頑張っていただきたい。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	古賀紙芝居サークル「カチカチ会」
事 業 名	大型紙芝居巡回公演企画
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体の運営に関して、構成員の人数と出勤回数がアンバランスになっている印象を受ける。団体の自立を考えれば、上演実績の回数が多い印象であるし、謝礼をとりたくないの理解できるが、謝金収入が少ないのではないか。もう少し活動のペースややりかたを調整しつつ、団体の基盤づくりに力を入れ、計画的にやることに時間を割かなければ、事業の継続の面が心配である。要請に全部応えていくのには無理があると思うので、上演回数を自分たちでコントロールしながらでも、団体の基盤をつくるほうとか大道具、小道具もしっかりつくるほうに力を注ぐような形にして、継続して実施できるようなやり方としていかなければいけない。補助金をもらっている間にやり過ぎてしまうと継続がきつくなる感じがするので、複数回やったところは、上演を見合わせることも考えてよいのではないか。 ・ 定例会やその他の活動、紙芝居の上演を全て数えると、全部で 70 回ぐらいやっており、多忙であると思う。今後も高齢者が増えていくので、紙芝居の人気も上がるのではないかと思うので、会員の増を図って組織を強化していただきたい。資金調達の関係では、その他の先進団体の情報を手に入れるなどして、報酬等に関する取り決めを行なった上で資金力を増して、これからも頑張っていっていただきたい。 ・ 非常に精力的に活動をされていると思う。団体全体の収支は、会費と複数の補助金と謝礼金で賄っているようで、練習会場代もその中から出しているようだ。ただ、報告を見ると交通費等も入っていないので、参加している方が、交通費も手出しでやっているのだろうということを考えると、ボランティアとはいえ会員を増やすことを考えるとそういった実費については、収入を確保するようにして、長く続けて行けるようにしていくとよいのではないか。 ・ 高齢者や子どもを対象にして紙芝居を見てもらい、楽しんでもらうと同時に、その内容が、古賀市の民話などをもとにして自分達で物語をつくって知らせるということも非常にいい取り組みだと思う。ただやはり、自立に向けての収入をどうするかという点において、結果的に幾らになったということではなく、例えば、1 回あたりの料金を決めてしまえば、上演すれば収入の見込みも立つので、活動がやりやすくなるのではないか。以前にも提案したが、ネーミングライツのようなものや紙芝居のふちに広告を入れるような仕組みも取り入れるとよいのではないか。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団体名	わんにゃんフレンズ古賀
事業名	ボランティアによる飼い主のいない猫の捕獲避妊去勢手術・啓発活動
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・行政と団体がよい関係を築けているので、補助事業が終了した後の取り組みについて、財政面では、自分たちの力で資金調達ができていくのであろうが、国や県の流れが追い風になっていることもある中で、具体的に事業を進めていくために古賀市との連携は必要になってくると思うので、どのようにしていくのかをお互いに考えておいていただきたい。手術する頭数が増えていることから、ボランティアで事業を進めていく中で、無理がないのかが重要なポイントになるので、担当課でも気をつけておいていただきたい。寄付金を安定してとれている点は、評価できるが、任意団体で寄付金額が一定の金額を超えると課税されるという話があり、活動を継続していく場合に、寄付金が継続的な財源になる可能性もあるので、法人化を検討してもよいのではないかな。 ・ほかの事業と違い、事業を取りやめた場合に、野良猫が増えていくような状況を想像すると、後戻りができないように思う。国や県もこの事業を推進している状況があるので、環境課と協力して推進していただきたい。 ・補助金の意義や成果があらわれたものだと思う。ただ単にお金を出すということではなく、それを越えた行政との連携で市民に広めていくということをしているので、この 3 年間で築いたものを今後どう生かしていくのかという点で、この補助金の成果を示すものになるので、今後どうしていくのかを団体と行政とこれまでの連携を生かして考えていってもらいたい。今猫ブームなので、地域猫やTNRの話もマスコミでも最近すごく取り上げられてきており、全国で取り組みが進んでいるようだ。古賀市では、任意の団体が活動しているものをどう今後につなげていくのかを考えてもらいたいし、期待をしているところである。 ・熱意もあるし、市との共働がうまくいって、寄付金も増えており、非常によい取り組みだと思う。ただ、補助終了後、自立に向けてどうするのかという点で、支出では手術費用がかなりの部分を占めるので、支出を減らすために手術を減らすということは、できないであろうし、一生懸命やればやるほど経費がかかってしまい、なかなか難しいとは思いますが、担当課と話しながら、いい意味でお互いに見守ったりアドバイスしながら、共働関係で事業を続けていただきたい。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	特定非営利活動法人エコけん
事 業 名	るんるん♪ごみ拾い
評価におけるコメント	
<p>・ごみ拾いという環境活動に参加してもらうところが、重要な取り組みであるという話だったが、団体からまつりの主催者に、そもそもごみがでないような取り組みになるよう、働きかけることも必要なのではないかと。自分たちの活動だけではなく、古賀市の環境活動をどう考えていくのかの視点を持って臨んでいただきたい。</p> <p>・ごみのポイ捨てに対しては、全てをなくす解決策がない状況があるので、こういうゲーム性を持たせたごみ拾いの体験をしてもらって、ポイ捨てが実際に見られたときに、拾ってもらえるようになることが大事ではないかと思う。若者を中心に町中のごみを拾う活動が各地で広がっているということが新聞に載っていたが、そうした活動へのきっかけづくりになるような、広がりのある活動になるようにしていただきたい。</p> <p>・前年度の評価結果と同様、今回の報告を見てもただのゴミ拾いイベントだと感想である。アンケートとしてはあるが、内容を見ても、楽しくごみ拾いしたという感じで終わっており、このイベントがその後のボランティア活動やエコ活動につなげるどういう取り組みなのか全く今見えてこない。イベントとしてやることに関しては、問題ないとは思いますが、楽しただけで終わってしまっただけでは、もったいない。ごみ拾いが楽しかったことがごみを減らそうというのにどうつながるのか疑問であり、啓蒙活動の機会等になるようにすべきではないか。</p> <p>・リピーターが結構いるということもあり、これをさらに引きつけるために、例えば、拾ったごみの内容を分析して、どのようなごみが多かったかの結果を翌年のまつり古賀で掲示すれば、初めてきた人にとっても、ごみ拾いをしていない人への啓発効果にもなるのではないかと。それを見て、自分の拾ってみようとして新規に参加する方も増えるかもしれないし、去年自分が拾った結果が表になっていたら、頑張ってたよ良かった、もう少し頑張ろうかというふうにもつながると思う。今後は、参加しやすいボランティア情報を一緒に配布するといった改善目標もあるが、さらに踏み込んで工夫をしていくことで、ごみ拾いをした成果や目に見える啓発になるのではないかと。ポイ捨てがなくなる状況の中で、体験型のごみ拾いは環境教育の一環としても非常によいことだと思うが、そもそもごみを捨てないよう徹底的に啓発活動するなどの視点も持ち合わせるとよいのではないかと。</p>	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団 体 名	古賀すたいる
事 業 名	生活者による地域密着・We b連動型フリーペーパー発行事業
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立の方向を目指していくためには、結果的に、発行回数を減らすなどのやり方もあるが、定期的に 4 回出すことを目指しているのであれば、工夫が必要で、クオリティも少しずつ上げていくしかない。企画の内容で勝負しているという点において、行政の選挙などの施策と合わせるなど、非営利型のフリーペーパーとしては、新たな取り組みであると思う。行政が何をしようとしているのか、どんなことを目指そうとしているのかについて、担当する経営企画課では情報が入ってき易いと思うので、補助事業終了後も情報交換をしながらやっていく関係ができるとよいと思う。 ・ 色々な情報誌はあるが、選挙割やスマート国勢調査等については、先進的で斬新である。市役所との連携を強めながら、より多くの人に行き渡るよう 4,000 部の配布先の検討をお願いしたい。 ・ フリーペーパーではあるが、単に記事を書いて配るということに留まらず、色々アイデアを出して独自の取り組みをしているところが評価できる。今後、定期的に発行していく中で、さらにどう進めていくのが、楽しみでもあるし、そこを頑張っていただきたい。周知されていけば広告収入も増えていくのかもしれないが、収入面においても何か考えていかないといけないのではないかと。 ・ フリーペーパーで注目を集めたり、色々な企画を考えて活動していることも非常に良かったと思う。ただ、事業の性質上難しいとは思いますが、効果に関して、どうやって量的に図るのかを常に考えていただきたい。何部配ったかはわかるが何人が読んでくれたかや、選挙割りによって、どのくらい投票率が上がったかなど、この事業を行った効果を量的に図るということをどうやってできるのかということに常に意識しておいていただきたい。また、報告書には「多くの来場者が来ていただいた」や「新たな仲間が増えた」と記載してあるが、具体的な人数がわからない。新聞やマスコミに取り上げられたというのであれば、1年間を通じて何回メディアに取り上げてもらったかなどは数字として表すことができると思う。常に効果を数字で計るためにはどうすればいいのかを意識して、できることに関しては、ただ言葉だけではなくきちんと示す姿勢を持っていただきたい。 	